

令和4年度（2022年度）

金沢大学法科大学院

入学試験問題

刑 法

B日程入試

（注意）

1. 問題冊子（表紙を含む）は2枚です。
2. 問題冊子は指示があるまで開かないで下さい。
3. 問題冊子と下書き用紙は持ち帰って下さい。
4. 解答は、鉛筆、シャープペンシル、ペン、ボールペンのいずれで記入しても構いません。
5. 解答にあたっては、どの問題から解答しても構いません。ただし、どの問題についての解答であるのかを答案中に明示してください。

令和4年度（2022年度）金沢大学法科大学院入学試験問題

試験科目	刑	法
------	---	---

以下の問題について解答しなさい。

問題1（各5点）

以下の語句あるいは概念を説明しなさい。解答の際は、定義だけを記述するのではなく、学説の議論状況や判例の状況など解答すべき内容を問題に応じて自ら選択し、具体的な事例を自ら設定したうえでそれぞれ解答用紙5行程度で解答すること。

(1) 相当因果関係

(2) 不可罰的事後行為

問題2（15点）

次の事例におけるXの罪責を論じなさい。ただし、特別法違反の点は論じる必要はない。

Xは、仕事で嫌なことがありむしゃくしゃしていたため、炎を見て気持ちをすっきりさせようと考えた。Xがある施設の駐車場を通りかかった際、Aが所有する高級外車が停められているのに気づき、金持ちへの天誅と称して持っていた新聞紙に火をつけて同外車の車体下に置いた。同外車は勢い良く燃え上がり、火は最大で2メートルの高さに達した。同外車の4メートルほど西側には同施設のごみ集積場があり、翌朝のごみ収集を控えてかなりの量の可燃ごみが積みあがっていた。当日は時折東寄りの風が強めに吹くことがあり、同外車から上がる火が同ごみ集積場に至る可能性は皆無ではなく、Xもそのことを認識していた。なお、駐車場にはそれ以外の車や建造物等はなかった。

以上